

## 平成15（2003）年度発展途上国研究奨励賞の表彰について

アジア経済研究所は、昭和38年以来、発展途上諸国の経済などの諸問題に関する優秀論文の表彰を行ってきた。昭和55年には、「発展途上国研究奨励賞」として、この領域における研究水準の向上に一層資することを目指して、その対象を社会科学およびその周辺の調査研究事業の著作全般に拡大した。表彰の対象は、前年の1月から12月までの1年間にわが国で一般に入手できる形で公開された図書、雑誌論文、文献目録などで、発展途上国の経済、社会などの諸問題について研究し、また分析したものである。

平成15（2003）年度は各方面から推薦された58点を選考したが、最終選考で下記の作品が選ばれた。表彰式は7月2日に当研究所において行われた。

---

### 〈受賞作〉

『稀少資源のポリティクス——タイ農村にみる開発と環境のはざま』（東京大学出版会）

佐藤 仁（東京大学大学院新領域創成科学研究科助教授）

---

### 〈選考委員〉

委員長：中兼和津次（青山学院大学国際政治経済学部教授） 委員：遠藤健（朝日新聞社論説委員）、高阪章（大阪大学大学院国際公共政策研究科教授）、寺西重郎（一橋大学経済研究所教授）、原洋之介（東京大学大学院情報学環・学際情報学府教授）、山澤逸平（アジア経済研究所長）

### 〈最終選考対象作品〉

最終選考の対象となった作品は受賞作のほか、次の4作品であった。

川中 豪著 *Power in a Philippine City* (アジア経済研究所)

丸川知雄著『労働市場の地殻変動』 (名古屋大学出版会)

青柳 斉著『中国農村合作社の改革——供銷社の展開過程——』 (日本経済評論社)

深川博史著『市場開放下の韓国農業——農地問題と環境農業への取り組み——』 (九州大学出版会)

佐藤仁『稀少資源のポリティクス——タイ農村にみる開発と環境のはざま——』

やま ざわ いっ べい  
山 澤 逸 平

大事な賞なのだから授賞式だけでなく、選考過程に参加させてほしいと頼んだら、査読を割り当てられ、講評を書く仕儀となった。しかし本書は丁寧に作られたよい本である。メッセージも明快であり、本書から学んだことも多い。

環境保全と農村開発・生活向上をどのようにしたら両立させうるか。タイ中西部のホアイ・カー・ケン保護区と隣接する農村との「はざまの土地」での農民（少数民族のカレン族）の生活実態調査を通して、著者は自分の答えを出す。タイ国政府の森林政策は伝統的に資源（チーク材）保護であったし、それがチーク資源が枯渇に瀕した1980年代から全般的な森林環境保全・観光利用に修正されたが、森林地を囲い込み、住み着く農民を排除する基本は変わらない。

他方同じ政府の農業政策は東北から移り住んだカレン族に自給自足の焼き畑農業から商品作物生産・定着農業化を勧める。両政策の間の相克ははざまの土地で顕著に現れてくる。これに

地球環境保護や貧困削減を叫ぶ国際機関やNGOの外部アクターが介入して、それぞれの利害関係が錯綜するポリティクスが錯綜する。その中で、「豊かな森林の貧しい人々」の構図は変わらず、さらに森林面積が減少する一方で貧しい人々が増えて行き悪化する現状を報告する。著者は現地に住みこみ、人々の信頼を得て家計情報を得ながら、農民の目線を保っての詳細な実態調査を行った。

タイ・英・日語の既成文献を十分に踏まえた幅広い視野を備え、手堅く独自のフィールド・サーベイに支えられている。環境論とはいいながら社会科学の方法論が貫徹されている。補論ではポリティカル・エコロジーの取り組みの方法論が紹介されている。ただポリティクスといながら、それぞれの政策がどのように決められ、それがどのようにタイ政府の資源管理政策として位置づけられるか等に関する政治学的分析は本書の範囲を超えているようだ。

（日本貿易振興会・アジア経済研究所長）

## ●受賞のことば——佐藤 仁

天然資源の社会科学は、個別科学の狭間に落ち込んだ分野である。資源をモノとして扱う技術系の分野や森林などの資源母体の生態学が著しい発達をとげたのに対して、資源の性質が社会に促す作用の研究は非常に少ない。資源研究の体制は、工学、農学、経済学などに分断されているうえに、その多くが現場の文脈とは切り離されたモデル構築に偏っている。地域研究の手法を活かしながら既存の枠にとらわれず、開発と環境保全の両方を見渡す領域を作りたい。本書は、その大きな構想に向けた最初の助走であった。

ところが、個別科学の枠を踏み出す特異な道を歩んだ結果、実にラベルの貼りにくい本になった。書店での配架場所がまちまちであることに、それが反映されている。ある書店では「東南アジア」のコーナーにあり、別の書店には「環境」の棚に置かれている。出版社側の分類では「経済」ということになっている。さまざまな分野に融通が利くのは一見よいことだが、既存の分野を忠実に深めることが奨励される研究者の世界では一般に不利である。「ご専門は何ですか」という問いにも、通常より長い説明を余儀なくされ、短い時間で印象を与えるのが難しい。だが、利点もある。一言で会話に終止符を打つことのできる「経済学」や「政治学」という良く知られたラベルに比べて、分かりにくい専門ゆえに質問が続くことが多いのである。専門の曖昧さが、かえって多様な分野に対話の扉を開くのだ。そうした対話の繰り返しで、自分の研究の位置づけを内省する機会になってきた。

18世紀末ごろまでの学者はたいてい、長い肩

書きを必要としていたそうである。例えば、天文学者にして物理学者とか、数学者にして詩人であるとか。いにしへの巨匠を引き合いに出すのは、おこがましいが、学問が創成されたころの精神に立ち返って、型どおりの専門性からではなく、問題の性質から思考することを大切にしたい。本賞の受賞は「それでかまわない」と背中を押してくれる有難いものだった。

### 略 歴

1968年生まれ。

1992年 東京大学教養学部教養学科文化人類学専攻卒業。

1994年 ハーバード大学ケネディ行政学大学院修了。

1998年 東京大学大学院総合文化研究科国際社会科学専攻博士課程修了（学術博士）。

タイ国カセサート大学Regional Community Forestry Training Center 客員研究員（1995-97）、イエール大学農村研究プログラム・ポスドクフェロー（1998-99）、東京大学大学院新領域創成科学研究科助手を経て、2000年4月より東京大学大学院新領域創成科学研究科環境学専攻国際環境基盤学大講座助教授、現在に至る。

### 主要著作

#### 著 書

『アジア新世紀：市場』（共著）岩波書店 2003年。

『環境学の技法』（共著）東京大学出版会 2002年。

#### 論 文

「開発研究における事例分析の意義と方法」『国際開発研究』Vol. 12, No. 1, pp. 1-15 (2003)。

“Public Land for the People: Institutional Basis of Community Forestry in Thailand,” *Journal of Southeast Asian Studies* Vol. 32, No. 2, pp. 329-346 (2003)。

“People in Between: Conversion and Conservation of Forest Lands in Thailand,” *Development and Change* Vol. 31, No. 1, pp. 155-177 (2000)。

#### 訳 書

アマルティア・セン 『不平等の再検討：潜在能力と自由』（共訳）岩波書店 1999年。